

令和4年度 旭区運営方針(素案)(抜粋)

経営課題3

【地域コミュニティの活性化とまちの魅力の向上】



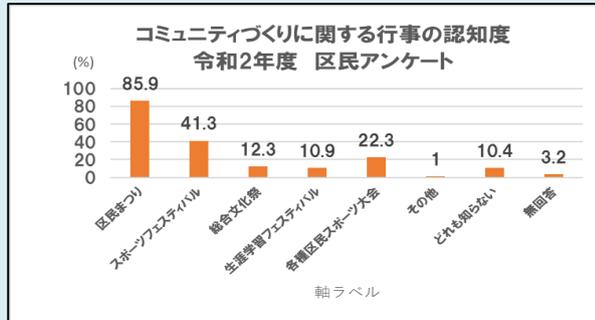
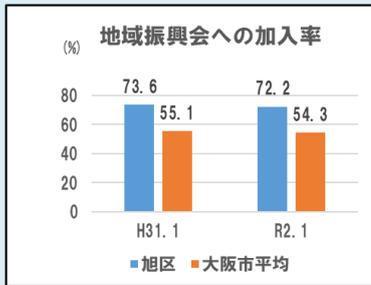
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

豊かなコミュニティをさらに強めていただき、区民の皆様の自律的な地域運営を推進し、サークル活動などが活発な、にぎわいあるまちづくりの取組を進める。
 まちの魅力が高まり、区民の皆様が地域に愛着や誇りをさらに持っていただけるまちをめざすとともに、多くの人々が訪れる活気のあるまちをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【地域コミュニティについて】

- ・平成24年度末に区内の全小学校下に地域活動協議会が形成され、地域が一体となって組織運営がなされ、広報活動により活動内容や組織・会計の情報が発信され、透明性が確保されており、一層の自律的な運営を推進している。
- ・地域振興会への加入率が72.2%（令和2年1月1日現在）と高く、伝統ある地域行事の実施や、子どもや高齢者の見守りなど地域コミュニティの継続性が図られている。
- ・コミュニティづくりに関する行事の認知度について、2年度の区民アンケートによると、「どれも知らない」は10.4%と低いものの、イベントによってばらつきがある。



【魅力を高める取組について】

- ・城北公園、淀川、城北フンドなどの自然や商店街、音楽、歴史など、魅力あふれる地域資源を数多く有している。
- ・区内にある地域資源や店舗等を「旭区ブランド」「旭わがまちお宝」として認定し、広報紙やホームページ等で広くPRしている。

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【地域コミュニティについて】

- ・地域コミュニティにかかる行事の認知度の低いものがあり、参加者の固定化へつながっている。
- ・地域活動に参加している人の固定化により、地域コミュニティの希薄化が進んでいる。

【魅力を高める取組について】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、区への愛着心の醸成や活気あるまちをめざす取組が進められない状況が続くなか、当区では、感染防止策を講じながら、区民の皆さんとまちの魅力向上に取り組んでいるが、地域や商店街などにおいても、にぎわいを生み出す交流の場が減っており、連携を図る活動のノウハウの継承が困難な状況にある。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【地域コミュニティについて】

- ・地域住民が気軽に参加でき、各世代が交流できる行事を実施することなど、地域コミュニティへの参画を促し、担い手不足の解消を図る必要がある。

【魅力を高める取組について】

- ・今年度においても、コロナ禍ではあるが、区民の皆さんに、地域に対する愛着や誇りをさらに持っていただくとともに、若い世代を中心とした多くの方に、区の魅力への関心を高めてもらうための取組を新型コロナウイルス感染状況を見極めながら進め、地域のにぎわいを創出し、区全体を活性化させる必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 3-1 【地域コミュニティの活性化促進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 地域課題を共有しながら活動できる校区等地域を単位として、各種地域団体や企業、NPO等、多様な主体が地域社会の将来像を共有しながらそれぞれ特性を発揮し、様々な地域課題に取り組む地域活動協議会が、自律的に地域運営を行う活力ある地域社会	戦略（中期的な取組の方向性） ・地域団体やNPO、企業等地域のまちづくりに関する様々な活動主体が幅広く参画し、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら地域運営に取り組む活動を積極的に支援するため、自律的に地域課題の解決に取り組む地域活動協議会の運営支援に取り組む。 ・生涯学習関連団体や区民ボランティア、社会教育関係団体等と連携した取組を進める。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合 《地活協の構成団体へのアンケート》令和4年度までに88%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A: 順調 B: 順調でない	
戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組3-1-1 【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進（改革の柱4-1）】

2 決算額 24,782千円 3 予算額 31,552千円 4 算定見込額 31,580千円

計画	当年度の取組内容 ・区内の全10地域活動協議会が、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境及び文化・スポーツの分野において、広く住民全般を対象として行う事業（夏祭り、運動会、見守り活動、夜警、防犯灯維持管理事業、広報事業、憩の家管理事業、防災訓練等、ふれあい喫茶・子育てサロン、青色防犯パトロール活動、食事サービス事業）や地域活動協議会の運営等（組織運営・会計支援）に関するアドバイスを実施する。	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合 85%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合、支援内容等を精査し、見直したうえで再構築する。
		前年度までの実績 ・防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境及び文化・スポーツの分野において、広く住民全般を対象として全10地域活動協議会が行う事業実施件数 105件（元年度） ※2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどの事業が中止または休止となった。 ・地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合 85.9%（元年度）77.4%（2年度） ・地域活動協議会の運営等（組織運営・会計支援）に専念してアドバイスを行う会計年度任用職員2名の配置（平成29年度～）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組3-1-2

【スポーツ・文化等によるコミュニティの育成】

2決算額 8,400千円 3予算額 8,710千円 4算定見込額 8,710千円

計画	当年度の取組内容 旭区におけるコミュニティづくりを一層推進し、地域の各種団体と協働して、コミュニティ活性化のための各種催しを企画・実施する。 ・区民まつり、スポーツフェスティバル、各種スポーツ大会 区民が中心となった文化芸術を通じたコミュニティを育成するための取組を実施する。 ・区民の文化芸術活動の発表の場としての「旭区総合文化祭」を開催 ・文化芸術を通じた区民のコミュニティの拠点として「旭区文化芸術振興連絡会」を運営	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） コミュニティ活性化のための各種催しを知っていると区民アンケートで答えた区民の割合 90%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が70%以下の場合、事業内容等を精査し、見直したうえで再構築する。 前年度までの実績 ・区民まつりの開催 元年度 参加者各年度約30,000人、2年度 新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンライン開催に変更（無観客） ・スポーツフェスティバルの開催 2年度・3年度ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止（代替事業としてスリーアイズ大会を開催（参加者数 2年度：約70人（10チーム）、3年度：約50人（8チーム）） ・区民総合文化祭（「子どもカーニバル」「子ども文化祭（区子連事業）」「区民文化のつどい」「区民まつりプレコンサート」から成る）の開催 元年度 参加者延べ3,000人、2年度 参加者延べ683人
----	--	---

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

具体的取組3-1-3

【生涯学習の推進】

2決算額 411千円 3予算額 1,174千円 4算定見込額 1,174千円

計画	当年度の取組内容 生涯学習関連機関・区民ボランティア・社会教育関係団体等と連携した事業を実施する。 ・関係施設・生涯学習推進員との連絡会の開催 ・各小学校下における生涯学習ルーム事業の実施	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 参加者アンケートにおいて、生涯学習講座等へ参加することで人と人がつながり、コミュニティの活性化に寄与すると感じると回答する人の割合 80%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・生涯学習推進員旭区連絡会の開催（元年度9回、2年度4回） ・生涯学習ルーム事業の実施（元年度10小学校下、2年度10小学校下）
----	---	---

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

具体的取組3-1-4

【人権施策の推進】

2 決算額 3,536千円 3 予算額 3,976千円 4 算定見込額 3,978千円

計画	当年度の取組内容 「大阪市人権尊重の社会づくり条例」に基づき、人権尊重の明るい社会づくりを目指し、事業を実施する。 ・人権・生涯学習情報紙「じんけんあさひ」の発行 ・ふれあいシアターの実施 ・大阪市人権啓発推進員 旭区連絡会の開催 ・にほんご教室の開催 ・人権相談の実施	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 人権啓発事業の参加者アンケートで、人権に対する理解が深まったと回答した割合 80%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合、事業を再構築する。
		前年度までの実績 ・ふれあいシアターの実施（元年度1回、2年度1回） ・「じんけんあさひ」の発行（元年度1回、2年度1回） ・大阪市人権啓発推進員旭区連絡会の開催（2年度、3年度） ・にほんご教室の開催（2年度、3年度）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 3-2 【地域資源を活用したまちの魅力づくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 地域資源を活用した取組により、旭区の魅力を高め広く知ってもらおうことで、旭区を誇りに思い、郷土愛や愛着を深めてもらうと同時に、区全体の活性化をめざす。	戦略（中期的な取組の方向性） ・「旭区ブランド」等の認定やそれを活用したイベントの開催など、「区の魅力を高める」「区を知ってもらう」ための取組を、区民の皆さんと連携して進めながら、区全体を活性化していく。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 地域の賑わいや活性化が進んだと思うと区民アンケートで答えた区民の割合 令和4年度までに80%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組3-2-1 【まちの魅力を高める取組】

2決算額 2,556千円 3予算額 7,056千円 4算定見込額 7,056千円

計画	当年度の取組内容 区制90周年の節目を迎え、旭区が持つ城北公園等の自然や商店街、音楽や歴史など、多様な地域資源を活用しながらにぎわいを創出し、地域に対する愛着や誇りを持ち、若い世代を中心とした多くの方々の関心が高まるよう、区民とともに、まちの魅力向上に取り組む。 ・旭区内をめぐる魅力づくりイベント ・旭区ブランドの認定 ・区の魚（イタセンバラ）の保全活動及びPR ・小学校での花菖蒲栽培 ・音楽を通じたにぎわいイベント 2回 ・あさひ、だいすき♪『旭区検定』の実施 1回 ・大阪工業大学との連携事業の推進	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） イベント等の取組が旭区の魅力を高めることに寄与すると感じる参加者の割合 <参加者アンケート>70%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・旭区ブランドの認定 { 元年度 ブランド4件、お宝7件 2年度 ブランド2件、お宝14件 } ・区の魚（イタセンバラ）保全活動（元年度1回、2年度0回） ・小学校での花菖蒲栽培（元年度7校参加、2年度7校参加） ・音楽を通じたにぎわいイベント（元年度2回、2年度1回） ・あさひ、だいすき♪『旭区検定』の実施（元年度1回、2年度1回） ・大阪工業大学との連携事業の推進（元年度5件、2年度2件） ・空き店舗の勉強会（元年度0回、2年度1回） ・インバウンド誘致（情報発信・体験メニュー） { 元年度 マップナビおおさかでの情報提供 大阪観光局の体験メニューサイトと連携 2年度 体験メニューホームページにフィリピン語、ベトナム語追加 }
	プロセス指標の達成状況	

中間振り返り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

地震や台風、火災、河川氾濫等による災害の発生や被害の拡大を、自主防災組織の活躍により、最小限に食い止めることができる地域防災体制を確立するとともに防災意識の高いまちづくりをめざす。
関係機関や地域と協働し、犯罪や交通事故のない安全で安心して暮らせるまちづくりをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【防災体制の充実について】

・南海トラフ巨大地震による旭区の被害想定（平成25年度）

建物被害	12,440棟	（区内約25,000棟の内 全壊：4,573棟、半壊：7,867棟）
人的被害	1,552人	（死者23人、重傷者311人、負傷者1,218人）
要救助者	3,244人	（建物被害 80人、津波被害 3,164人）

・上町断層帯地震による旭区の被害想定（平成18年度）

建物被害	16,392棟	（区内約25,000棟の内 全壊：12,257棟、半壊：4,135棟）
人的被害	1,556人	（建物被害によるもの：死者404人、負傷者623人） （火災被害によるもの：死者82人、負傷者447人）

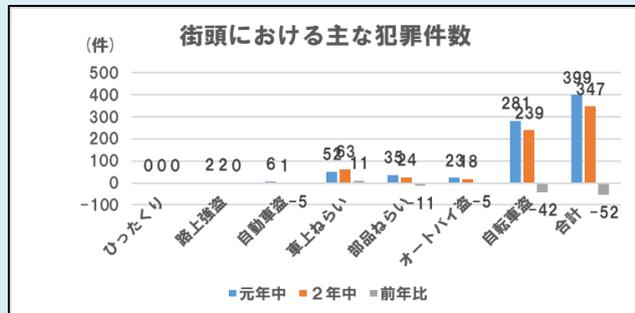
- ・淀川が氾濫した場合の新しい洪水浸水想定（平成29年6月の国土交通省淀川河川事務所公表資料）では、最大規模の想定で区内市街地のほぼ全域（約5.2km²）が浸水し、平均深さ約2.4m（最大深さ約7.2m）の浸水が予測されている。
- ・旭区は昭和55年以前木造住宅密度が全国で5番目に高い地域である。（平成19年の中央防災会議公表資料）
- ・これまでに区内各校下への大型粉末消火器の導入（平成29年度末で区内105か所に配備）や地域防災リーダーを中心とした初期消火体制を構築している。
- ・本市の備蓄物資については、「大規模災害時における救援物資に関する今後の備蓄方針（大阪府域救援物資対策協議会令和2年9月改定）」に定められた11品目の物資を基本としながら、国や大阪府などが定める避難所運営等にかかる各種ガイドラインや取組指針など踏まえ、避難所運営に必要な備蓄物資を定めるとともに、市民や事業者による自助、共助の備蓄についても避難生活における必要物資の備蓄を促進することとなっている。

【防犯・交通安全啓発について】

- ・街頭における主な犯罪発生状況 令和2年347件
うち約69%が自転車盗（239件、前年比△42件）
- ・区内交通事故発生状況 令和2年142件
死傷者数163人（うち死者0人）、事故のうちの44.4%が自転車関連（63件）

	元年中	2年中	前年比
ひったくり	0	0	0
路上強盗	2	2	0
自動車盗	6	1	-5
車上ねらい	52	63	11
部品ねらい	35	24	-11
オートバイ盗	23	18	-5
自転車盗	281	239	-42
合計	399	347	-52

※ 件数は発生地で計上しているため、警察署の認知件数と異なる場合があります。



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【防災体制の充実について】

- ・区内に密集した木造住宅が多く存在し、地震等による揺れ、火災、洪水に対して非常に脆弱な地域特性を有しているが、現状では地域の自助・共助の体制及び公助の防災対策拠点である区役所の防災体制が十分に確立されていない。
- ・区民の防災に対する意識は総じて高いが、隅々まで浸透しているとは言えない状況にある。

【防犯・交通安全啓発について】

- ・区民の防犯・交通安全に対する意識は総じて高いが、隅々まで浸透しているとは言えない状況にある。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【防災体制の充実について】

- ・地震等による揺れ、火災、洪水の対策に対応できるよう、旭区の持つ強みである地域コミュニティのつながりの強さを、自助・共助（ご近助）を担うことのできる自主防災組織の育成に生かすことが必要である。
- ・公助の拠点である区役所が災害時に機能するように、職員に複数の役割（Wミッション）をもたせた防災体制を構築するとともに、直近参集職員（区内に居住し、旭区役所以外に所属する市職員）との連携などについて充実させる必要がある。
- ・水害時避難ビルの指定や災害時の協定などについて、民間事業者等との連携を進めることが必要である。

【防犯・交通安全啓発について】

- ・区民の自転車のマナー向上や車上ねらい・部品ねらい・自転車盗の減少に向け、警察と連携し、地域と協働して防犯・交通安全啓発の継続が必要である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 4-1 【「ご近助」精神による防災体制の充実】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	地震や台風、火災、河川氾濫等による災害の発生や被害の拡大を、自主防災組織の活躍により、最小限に食い止めることができる地域防災体制を確立するとともに防災意識の高いまちづくりをめざす。 アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) 旭区地域防災計画に基づき、自主防災組織等地域主体による地域実情に即した訓練など防災活動を実施した地域 令和4年度までに全10地域		・地域ごとの特性や熟度に応じた防災体制づくりを進める。 ・災害時の初動に強い自助・共助(ご近助)の地域づくりをめざし、防災教育や防災意識の啓発を進めるとともに、必要な防災物資の配備を計画的に実施する。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		

具体的取組 4-1-1 【地域防災・減災力の強化】

2決算額 6,801千円 3予算額 8,019千円 4算定見込額 8,219千円

計画	当年度取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○防災啓発 地域での防災講座、学校での土曜授業、広報紙等による防災啓発を実施する。 ○防災訓練・研修 自主防災組織及び地域防災リーダーの育成、区職員の防災力向上のための実践型の訓練や研修を実施する。 ○「旭区防災教育事業」の実施 大阪市立大学と連携したプログラムの作成などにより、区内小・中学生を対象に防災教育を実施する。 ○防災拠点の整備・充実 必要な防災物資等の整備・充実を図ることにより、地域の災害対策本部や避難所並びに区災害対策本部の機能強化に取り組む。 ○地域や関係機関等との連携 避難行動要支援者(災害時要援護者)の支援、空家対策、関係機関や民間事業者との災害時連携や協定締結等の取組を推進する。 ○初期消火体制の維持 大型粉末消火器の使用方法的周知を図る。	各家庭において、防災対策をとっていると区民アンケートで答えた区民の割合 60%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が40%以下の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ○防災啓発 ・防災啓発講座 元年度14回(受講者延べ735人) 2年度 4回(受講者延べ65人) ・広報あさひ「防災特集号」による防災啓発(2年度7月、3年度10月) ・旭区地域防災計画の改訂(元年度) ・地区防災計画(地域ごとの冊子)の配布(2年度3地域、3年度7地域) ○防災訓練 ・避難所開設訓練を含む防災演習・ワークショップ(元年度19回、2年度17回) ・地域防災リーダー訓練(地域一体型防災訓練)を各校下で実施(元年度8校下、2年度6校下) ・区職員防災訓練の実施 区医師会との連携訓練(2年度1回、3年度1回) 大阪府トラック協会東北支部との連携訓練(元年度1回) ・区職員(避難所担当)の地域の避難所開設訓練への参加(元年度3地域、2年度3地域) ○防災拠点の整備・充実 ・備蓄物資等の資器材、カセットガス式発電機、災害用仮設トイレ、LED投光器、荷物搬送用ワゴン、避難所間仕切り、コロナウイルス対策用品(アルコール消毒液、非接触型体温計等)を配備(30年度~) ○地域や関係機関等との連携 ・地域防災担当者合同連絡会の開催(2年度7回、3年度7回) ・空家に関する専門機関の情報提供や個別相談を行うセミナーの開催(元年度1回、2年度1回) ・空家相談員を活用した相談会の実施(3年度3回) ○初期消火体制の維持 ・大型粉末消火器の設置(105台)

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 4-2 【地域防犯力の強化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 犯罪が発生した場所や時間、被害対象等の情報を警察等の機関との連携のもとで分析し、有効な防犯対策につなげる。 地域と協働で防犯カメラの設置や青色防犯パトロールを行い、犯罪や交通事故のないまちをめざす。		戦略(中期的な取組の方向性) ・防犯パトロール活動や防犯啓発を実施するとともに、区民による防犯ボランティア活動を支援することにより自主防犯活動の意識の向上を図り、安全で安心なまちづくりの取組を進める。特に防犯カメラの計画的な設置や自転車盗対策の強化について、警察署等と連携しながら重点的に取り組む。 ・交通マナーの向上や、「交通事故をなくす運動旭区推進本部」による交通事故をなくす取組、放置自転車・自転車のマナーアップの取組を継続して実施し、安全で安心して暮らせるまちづくりの取組を進める。 ・やなぎ通りの歩行者・自転車の安全・安心をめざし、平成28年度に旭郵便局前に区役所が管理する駐輪場を整備した。今後、警察・建設局・地域・周辺事業者の協力を得て、やなぎ通りの歩道にある自転車を無くす。さらに、やなぎ通りを自転車の安全通行モデル路線として整備していく。	
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ・区内の重点犯罪(自転車盗を含む)発生件数 令和4年度までに400件以下 ・区内の自転車交通事故発生件数 令和4年度までに80件以下			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須			
	A: 順調 B: 順調でない			
戦略の進捗状況			a: 順調 b: 順調でない	

具体的取組 4-2-1 【防犯・交通安全の対策】

2 決算額 2,305千円 3 予算額 2,914千円 4 算定見込額 2,914千円

計画	当年度の取組内容 ○防犯対策 ・EV車による青色防犯パトロールを実施する(200回)。 ・警察と連携し、「withコロナ」を踏まえた「非接触型啓発」などの手法による街頭啓発等を実施する。 ・街頭犯罪の抑止と子どもの安全をはかるとともに防犯カメラの維持管理等を行う。 ・地域防犯力の強化として、警察と協議のうえ、城北運河遊歩道に防犯カメラを設置することとし、令和2年度から3年計画で必要数を配備する。(令和4年度設置予定4台分) ○交通安全、自転車のマナーアップ及び放置自転車対策 ・警察と連携し、「交通事故をなくす運動旭区推進本部」を主体として、「withコロナ」を踏まえた「非接触型啓発」などの手法による街頭啓発等を実施する。 ・駅や中心市街地の特性を踏まえた効率的な放置自転車の撤去を実施する(区長権限建設局実施、撤去対象駅:7駅)。 ・やなぎ通りをモデル路線として、地域住民、周辺事業者、工芸所等と連携し、自転車通行ルールの路面表示や信号遵守の啓発看板を設置し、また、区設置駐輪場の利用を呼びかけるとともに、積極的な放置自転車撤去を実施する。		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) 防犯教室もしくは交通安全教室が、それぞれ犯罪から身を守ることや交通安全の維持・向上に役立つと感じる主催者の割合 80%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%以下の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ○防犯対策 ・青色防犯パトロール(元年度223回、2年度234回) ・子どもの安全巡回パトロール(元年度168回、2年度105回) ・区民協働による自転車盗難防止と旭警察署との合同ひたくり防止キャンペーン(元年度11回、2年度6回) ・防犯教室事業(元年度13回、2年度3回) ・警察・大工大女子学生と女性の犯罪被害防止等にかかる合同啓発(元年度2回、2年度1回) ・防犯カメラ設置(元年度1台、2年度6台) ・落書き防止ペイントや落書き消去活動(元年度1か所、2年度なし) ○交通安全、自転車のマナーアップ及び放置自転車対策 ・交通安全大会(元年度2回、2年度0回) ・区民参加の街頭啓発等(元年度2回、2年度0回) ・自転車のマナーアップや放置自転車対策としての啓発(元年度11回、2年度8回) ・自転車検問と指導(元年度3回、2年度12回) ・自転車関連の内容を中心とした交通安全教室(子ども、高齢者、子育て世代)の開催(元年度17回、2年度3回) ・やなぎ通りや駅など効率的な自転車撤去の実施(放置自転車撤去対象駅7駅、撤去(元年度562回)	
	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
中間振り返り	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	